

令和8・9年度

学びが、
生きる喜びにつながる。
—小江原から、未来へ—

長崎市立 小江原中学校 学力向上プラン

From
Koebaru
to the Future

～ 生きる喜びを実感し、主体的に学び続ける生徒の育成 ～
発達支持的生徒指導を基盤として、自己調整を中核とした学びを支える教育活動の推進

小江原中学校が育てたい生徒の姿

自分で考え、選び、行動し、
他者とともにによりよく
生きる力をもち、学びを通して
生きる喜びを実感する生徒

一人ひとりの可能性を信じ、
多様な人と協働しながら、
社会の中で主体的に学び続け、
よりよい未来を切り拓く生徒
を育てます。

小江原中学校 学力の冰山モデル

(Koebaru Learning Model)

～ 見える学力と見えない学力をともに育てる ～

目に見える学力
(テストの点数・成績 など)

知識・技能

確かな学力は
水面下の土台があって
伸びていく

思考力・判断力・表現力

目に見えにくい・見えない学力
(学びを支える土台)

学習習慣

自己調整力

自制心

粘り強さ

協働性

人間力

学校教育目標

自ら学び、さわやかで
たくましい心身を持つ
生徒の育成

学力向上重点目標

確かな学力を身に付け、
主体的に学ぶ生徒の
育成

学力向上の3つの柱

1

自己調整学習の促進

～学びをデザインする力を育てる～



見通し・選択・振り返りの習慣化

- ・「めあて」と「まとめ」を明確にした授業
- ・目標→実行→振り返り→改善の習慣化
- ・自分に合った学び方を選択する力の育成



AI教材の効果的な活用

- ・10分間 Qubena・Terra Talk Challenge
(毎日10分の取組で基礎的な知識・技能を定着)
- ・Terra Talkで「話す力」を育成



基本的な生活習慣の確立

- ・早寝・早起き・朝ごはんの習慣化
- ・「さき学習・あとメディア」の推進
- ・メディア利用時間の適正化

めざす生徒の姿

自分で計画し、粘り強く取り組み、
学びを調整できる生徒

2

授業と家庭学習の接続

～学校と家庭の学びをつなぐ～



授業での学びを家庭へつなぐ

- ・家庭学習を見据えた授業設計
- ・学び方を具体的に示し、自立した
家庭学習へつなげる



家庭学習の充実

- ・10分間 Qubena・Terra Talk Challenge
(帰宅後、まず10分間取り組み、
家庭学習の「学習スイッチ」を入れる)
- ・家庭学習チェック+PLUS
(家庭学習・生活習慣を振り返り、
改善につなげる)



家庭・保護者との連携強化

- ・学力向上通信「Step by Step」の発行
- ・学習状況の共有と改善に向けた支援
- ・「さき学習・あとメディア」の普及と協力

めざす生徒の姿

授業で学んだことを家庭でも活かし、
日常の学力を高める生徒

3

学びの転移を生み出す授業改善

～学びを地域社会、そして未来につなぐ～



「理解→解釈→熟考→活用」の学習活動

- ・文章・図表・グラフを読み解く力の育成
- ・自分の考えを話す・書く活動の充実



実生活・実社会に結びつける探究学習

- ・問いを立て、解決に向かう協働的な学び
- ・平和・人権教育とキャリア教育との連動



教科・地域・社会へ学びを広げる

- ・他教科・地域・家庭とつなぐ横断的な視点
- ・学んだことを別の場面で活用する機会の設定

めざす生徒の姿

学んだことを、別の場面でも活かし、
よりよい未来を創る生徒

数値目標 (令和8・9年度)

10分間
Qubena・Terra Talk
Challenge 達成率
100%

家庭学習チェック+PLUS
回答率
100%

さき学習・あとメディア
実践率
100%

全国学力・学習状況調査
全国平均以上
を維持・向上

記述問題の
無解答率
前年度比 **減少**

学校が楽しい
と思う生徒の割合
90%以上
(学校評価より)

推進体制



全校で支える学力向上

- ・研究推進委員会・教科部会
- ・校内研修の充実 (授業改善・生徒指導・キャリア教育)
- ・家庭・地域との連携 (学力向上通信・情報発信)

改善のサイクル (全校で回すPDCA)

Plan
計画
目標設定・
取組の設計

Do
実践
授業・家庭学習など
各取組の実施

Check
評価
データで検証
成果と課題の分析

Action
改善
次の取組へ
つなげる

一人ひとりの
学びが、
未来をつくる。